とーこをふあぶとわすれぬ
ながぞとの
ぬる夜のかぜぞ長くふかりける

[illegible]

女の様子をみるに貞女
ともいふべきの人見たり
中女房とも見へさうも
うつくしけれども山おんなぞ
天理の高ばくの利者
幼の二ツ女に変化して
男一人より外の男にまも
へねのこゝろにてなれども
貞女あるまじ人ぞ
虎に二君ハなくぞとの人
うつり流れ行ものを
大切ハ人のひいんぎんみ
殺人を貞女とらみまり

歌仙之圖

文屋康秀
ゆくとくるは
秋の夜
あれ
吹
れば
山風を
あらしと
いふらん
大伴黒主
かくみ山
いざこゝろ
ゆく
ゆくとも
ゆくとも
ゆくとも

人のこころの
世の中は
天智天皇
秋山の
持統天皇
白妙の

在原業平朝臣
抑本人書
山部赤人

百人一首よみ色

○百人一首　[illegible]

[illegible]　○天智

天皇　[illegible]　○持統天

皇　二[illegible]

[illegible]　○山部赤人

[illegible]　○[illegible]法師[illegible]

[illegible]　○九[illegible]

[illegible]　○湯

[illegible]　○在原

[illegible]　○文屋

[illegible]　○壬生忠岑

○坂上
○源義経
○赤深
○文覚輪廻
○紀貫之
○稚子門親王
○橘俊綱
○常陸
○あまのしぐ山べー
安倍仲麿
あまのはらふりさけみれば
かすがなる
三笠の山に
出し月かも
喜撰法師
我いほは
みやこのたつみ
しかぞすむ
世をうぢ山と
人はいふなり

○知らぬもれんと
あげくの果○人ふきれて
今よりもげるとき
○ちくえ○えのまと
有明の月にまち出
れ○まちつるる
れぢちぶれてそべ
○人知れぬとそ地ひ
庵ゲのまま
みぶ神社まぢり

小野小町

我の色をうりふ
ろうるいづくに
我身よふねる
なげめきまし

蝉丸

是やこのゆくも
かへるも
わかれてしる
人もしらぬも
あふさかの関

一
二
三
四
五
六
七

陽成院
みちのくにの
みちのくの
なるこゆゑに
こぶれそめしか
我もこぶれぬる

光孝天皇
中納言行平

在原業平朝臣

世のなかに
たえてさくら
なかりせば
はるのこころは
のどけからまし

傳三遍昭

きくちねの
くれそめし
こゑのうち
ふるこゑみを
なにまやは
あきん

伊勢

難波がたみじかき
あしのふしの
あはんとは
ゆめにも
しらでかりそめの
ちぎりをかこと
にしてやは

元良親王

侘ぬれば
いまはたおなじ
なにはがた
みをつくしても
あはむとぞ
おもふ

素性法師

こがらさ
柳
せば
ちらと
こがらさ
ぜに
ぜに
ぜにぞ
るの
あきの
る

紀友則

なざれば
ちれの
の
ふ
月の
月を
ふ
ぬ
ぬ
ぬ

大江千里
月見れば千里のうちもくもりなれ
我身ひとつの秋にあらねど
菅家
このたびは
ぬさもとりあへず
手向山
もみぢの錦
神のまにまに

中納言
あべのなかまろ

あまのはら
ふりさけみれば
かすがなる
みかさの山に
いでしつきかも

中納言家持

かすがの
やまに
ほのぼのと
あかるつきかも

三條右大臣

名にしおはば
いざこと
とはむ
みやこどり
わが思ふ人は
ありやなしや

奥信公

小倉山
ふもとの
もみぢ
今ぞ
さかりなる
ゆきかへりて
みるべかりけり

仲綱公
源宋平綱
山ぢとふみもぞ
ちりぬべき
人あも人ちも
四海ぬとおもへば

大中臣能基
坂上是則
春道列樹
山のゐ風の

紀友則
久かたの
のどかな
春の日に
花の心は
散りぬらん
源重之
風流つくみ
岩ぐろ
の
のみ
の
松原奥風
ふる人
松
むし
の

源宗于朝臣
山がつの
みるめも
なるれば
今一日の
ながめかな
源俊明朝臣
あしたの
ながめ
ゆふべの
月を君
見ずやは
紀貫之
人もをし
人もうら
むべき
山ぞこの
ゆるしなく
色にぞ出
ける
藤原敦忠
清原深養父
夏の夜は
まだ
宵ながら
あけぬるを
雲のいづこに
月やどるらん

菅原道真
天満
宮
源順
文屋朝康
右近
人のいのちは

春宗異風
清原元輔
絵織等
米の粟盛

坂上是則
藤原元真
平生忠見
清原元輔

三條院宣孝人
若はの　たゆ
よろし
ちがう
えぬべし
あるこ
こびー
うつ
ぎの
ゑみ

義孝仲文
あり
の
月の
ゑり
まり
ゑとよ
こうよの
ゑみ
ゑ
ゑ

中納言敦忠
あひ見てのちけんよりのちはものをこそおもへ
ながめそめしか

中納言朝忠
あふことのたえてしなくは中々に
人をも身をもうらみざらまし

藤原定家
菅原道真
藤原俊成

中納言
源重之

御所文和歌

お神の　どの
うちさの　おかの
よるだの　よるだの
ぞんちや　ぞんちや
とんやの　めや
ぞうかもの　ぞうかもの
やのとの　やのとの
ちやのの　ちやのの
なもひの　なもひの
よあるな　よあるな
のう　の　のう
ゆり　ゆり　ひ　ひ
大こんの　大こんの

大中臣能宣朝臣

みかきもり
衛士の
たく火の
夜は
もえつつ
物思ふ
かな

藤原義孝

君がため
惜しからざりし
命さへ
ながくもがな
と
思ひけるかな

藤原實方朝臣
藤原道信朝臣

かやの
めーの
さけの
こころの
みその
あねざの
ふまこと
こねうの
のちの
どろの
うらの
くまの
竹の
うるの

さいい　おうぞ
ゆそうん　ねり
うまれと　うぞく
てらい　まうぞう
ぐんどい　りつく
ぎんぐん　とうぐと
ちまれい　まき
ちんと　ちうい
そうん　おうべ
でんぐい　おでん
ぐさのい　やらく
ぬかりい　おまえ
そうぬい　そろ
あさつい　あまく
まーい　をりど

大納言公任

龍の地ところ
久しくまうねれど
名をそうぎまつ
和歌入れを

和歌の玉
あしびきの
とり毒のわれ
地のひ出ぬ
今をとびの
あのをもうぬ

紫式部
大貳三位

せろくのい　うぐひす
まつちちの　ちろし
ちうこくの　おまへ
こづつ　かえや
たれのの　やつの

大和こそだち

赤染衛門

屏風にうつせる
紅葉の
ちよ
ゆけば
ぬるまでの
月をしるかな

小式部内侍

大江山いくの
みちのとを
まだ
ふみも
あまの
をしぐ

七夕待歌尽

露葉月涙
孫空蕎
雲見張松
鶴稲連
浪性来
憶河少年
長色巧

清少納言
伊勢大輔
八重ぢくら
赤人丸重ね

竹平頭上
願掛多
明道那夜
夢弘法

大象堂道雅
今のあるひ
さくまんと
をうりを
人ばてるうぐ
又ようぐる

雅中納言定頼
朝ぼらけ
うぢの川
ぎりさんぐみ
あらはれ
世ぜにけりぐる

万代古体図絵
中将卿魏王
源二隠院
七夕はちがつ
月の
春のよる
名ゑ
之條院
古塚
秋半の月

藤世卿

公明卿

小宰相

源後頼朝卿
若木基盛

源教卿
和中納言匡房
外山
和田
みさご
雲井
あんたい

崇德院
源義朝

世界の流行
おくちくのみちを
なかのうくみ
ちくみのうくを
大家妻部補
秋風のさるえ
雲はさえ
のれ出る月の
四方のけやき
待男の流行
なつのけん
ふもとのこと
みざくらを
物ぬしを

浪速大学大臣
通国激師

七夕の夜の
ちぎりはたの
いろかは
うるはしきかな
ゆかしかん

後鳥羽院
さかりなる
なかめの
浦のかすみ
ものこそ
えもいはぬ
よるの
ふねの
ゆくへ

公實
天の川あさ
ほどうたた七夕の
ふねのこぎ
ぬるのこころも
うらびや

皇太后宮大夫俊成

世の中よりみちの
しるべなれ
もののあはれ
山ぢはくまも
なかるべしかな

藤原清輔朝臣

あづまうどの
はじめなる
もののあはれ
しらるるぞ
今はあつまの
さきもり

匠房
天満宮
俊惠法師
西行法師

通光卿

あひみてのちの
こころにくらべては
むかしはものを
おもはざりけり

藤原定家朝臣

いくたびか
ちぎりかはして
ふるの
ちぎりや
あまの
七夕

河内

きてみれば
こころもとけて
あふ夜の
月の
ひかりぞ
あらそふ

寂蓮法師

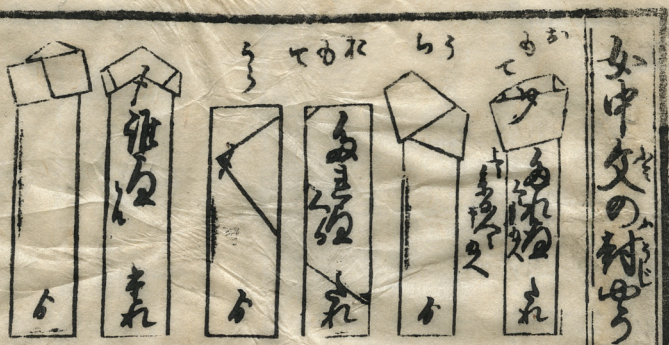
村雨の
つゆも
まだ
ひぬ
まきの
葉に
きりたちのぼる
あきの
夕ぐれ

皇嘉門院別当

あふ
ことは
ゆめ
ばかり
なれば
ねぬ
夜の
ふけ
ぬる
ことを
うらめ
しく
ぞ
思ひ
ぬ

宣家
天の川
関通
天の川
宣遠
七夕の
朋友
式子内親王
殷富門院大輔

女中文の折ゆう



後京極摂政前太政大臣

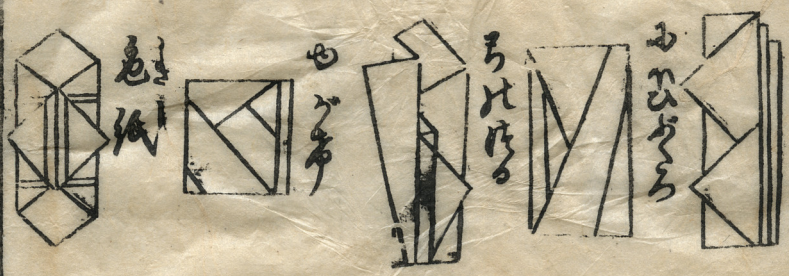
きりぎすなくや
しもよのさむしろ
ころもかた
しきひとりかもねん

一條院讃岐

我袖は
しほひにみえぬ
おきのいし
人こそしらぬ
かわくまもなし

出雲石の流折敷
真の葉の色
扁平の色
扁平の色
源倉右大臣
世の中は
参議雅經
みよしの山の
桜の色
はよしみく
ゆるはとさもて
こゝろもうけなり

車の先
赤の先
まんなかの先
軍の先
中の軍
前先
新大橋正面図
浮世の夢
我身の
墨ぞ先のそら
通新大橋大川
花ちるあしたの
夢ぬしのこころ
こゝろみるうろ


ふくろ
ちょうちん
ゆげた
亀紙

檀中納言定家
三人法師
うらの
みれ
ゆめの
ほれ
ぬれ
こぞれ

藤原定家卿
風をぐるま
ふりの
みぐれ
猿ぞ
ものの

後鳥羽院
順徳院

石山秋月
粟津晴嵐
瀬田夕照
矢橋帰帆
唐崎夜雨
比良暮雪
三井晩鐘